

令和7年度 幼児教育学科
自己点検・評価報告書

令和8年3月

本書における点検・評価のテーマ／基準／区分は、(一財) 大学・短期大学基準協会の定める項目のうち、学科/専攻科として対応すべきものを抽出したものである。

[テーマ 基準 I-B 教育の効果]

[区分 基準 I-B-1 教育目的・目標を確立している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 学科又は専攻課程の教育目的・目標を建学の精神に基づき確立している。
<input type="checkbox"/> (2) 学科又は専攻課程の教育目的・目標を学内外に表明している。
<input type="checkbox"/> (3) 学科又は専攻課程の教育目的・目標の達成状況を把握・評価している。
<input type="checkbox"/> (4) 学科又は専攻課程の教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に応えているか定期的に点検している。

(1) 現状

- ①学科の教育目的及び目標を建学の精神に基づき確立している。
- ②学科の教育目的及び目標を、ホームページや「学生のしおり」に記載し学内外に表明している。
- ③令和7年5～6月に学科教員が令和6年度卒業生の就職先訪問を実施、卒業生の様子を確認するとともに保育現場が求める人材を把握した。学科会議でも情報を交換し、教育目的及び目標が地域・社会の要請に応じているか定期的に点検している。
- ④外部評価委員会を通して、地域・社会の要請に応えているか点検している。

(2) 課題

- ①教育目的及び目標の表現は社会の状況や変化を踏まえ、誰もが共通のイメージをもつことができ、成果を検証できるよう確認する必要がある。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

- ①継続的に学科会議で時間を確保し、教育目的及び目標の表現の明確化と確認を図る。

[区分 基準 I-B-2 学習成果を定めている。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 短期大学としての学習成果を建学の精神に基づき定めている。
<input type="checkbox"/> (2) 学科又は専攻課程の学習成果を学科又は専攻課程の教育目的・目標に基づき定めている。
<input type="checkbox"/> (3) 学習成果を学内外に表明している。
<input type="checkbox"/> (4) 学習成果を学校教育法の短期大学の規定に照らして、定期的に点検している。

(1) 現状

- ①学修成果を、「学生のしおり」や Web シラバスで科目ごとに「学修成果別評価基準(ルーブリック)」として記載し、学内外に表明している。
- ②Web シラバスシステムを導入して、学生の学修成果をレーダーチャートなどに可視化して定期的に点検し、各教員が学期ごとに「授業改善レポート」を作成している。(Web シラバスに記載)
- ③Web シラバスシステムを利用して、学生に毎時間及び各期末に「授業アンケート」を実施し、学生による学修成果の自己評価を数値化して、授業改善に生かしている。
- ④学期末ごとに、学生に対して「履修カルテ」を記入させ、学修成果についての振り返りをさせるとともに、教員もコメントを記入して学修成果を評価している。

(2) 課題

- ①「学修成果別評価基準(ルーブリック)」の記載で、科目によって粗密の差がみられる。
- ②学修成果をさらに具体的で明確なものにし、一定期間内で獲得可能、測定可能なものにするように努めることが必要である。
- ③学修成果の獲得を評価・判定する仕組み、評価・判定した結果をフィードバックする仕組みを定めることが必要である。

(3) 特記事項

- ①昨年度からの学生の PC 必携に伴い 1・2 年とも「履修カルテ」のデジタル入力化することができた。

(4) 改善計画

- ①担当科目の特性を踏まえながら 5 つの学修成果の獲得のために教育方法等をさらに工夫する。そのことを通じて「学修成果別評価基準(ルーブリック)」の記載を見直し、改善する。
- ②学修成果が、定量的または定性的な根拠に基づき評価できるよう検討する。
- ③ クラスアワーの時間を活用して、Web シラバスシステムによる学生自身の学修成果と履修カルテによる自己評価を関連付けられるように整理する。

[区分 基準 I -B-3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 短期大学及び学科又は専攻課程ごとに、組織的議論を重ね、三つの方針を関連付けて一体的に策定し、学内外に表明している。
<input type="checkbox"/> (2) 短期大学及び学科又は専攻課程ごとに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に示している。 <ul style="list-style-type: none">①卒業認定・学位授与の方針は、学習成果に対応し、卒業の要件、資格取得の要件を明確に示している。②卒業認定・学位授与の方針は、社会的・国際的に通用性がある。③卒業認定・学位授与の方針を定期的に点検している。
<input type="checkbox"/> (3) 短期大学及び学科又は専攻課程ごとに教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している。 <ul style="list-style-type: none">①教育課程編成・実施の方針は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。②教育課程編成・実施の方針を定期的に点検している。
<input type="checkbox"/> (4) 短期大学及び学科又は専攻課程ごとに入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を明確に示している。 <ul style="list-style-type: none">①入学者受入れの方針は、学習成果に対応している。②入学者受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。③入学者受入れの方針を、高等学校等関係者の意見も聴取して定期的に点検している。

(1) 現状

- ①ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを一体的に策定し、「学生のしおり」や「募集要項」に記載して、内外に表明している。
- ②3 つの方針を踏まえた教育活動を行っており、前期末及び後期末に、「授業アンケート」や「履修カルテ」の記入を学生に求め、「3 つの方針」の達成状況を確認している。

- ③入学者受入れ方針を明確に示している。（「学生のしおり」に掲載）
- ④入学者受入れ方針は学修成果に対応しており、学生募集要項に明確に示している。
- ⑤その他のチェックポイントは、学務課が中心となって適切に実施している。

(2) 課題

- ①授業アンケートの対象となる科目と質問項目が整理され、回答しない学生や外部講師を含めた教員間の連携不足はあるものの、概ね 8 割以上の回答率が得られている。回答率 100%を目指す手立てを工夫する必要がある。
- ②履修カルテ記述内容の整理と活用の仕方、管理方法を検討する必要がある。
- ③保育・幼児教育をめぐる状況は、大きく変化している。その変化を適切に捉え、三つの方針を常に見直していくことが必要である。
- ④入学者の中にはアドミッション・ポリシーを理解していない者がおり、早い時期に退学・休学する学生がいる。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

- ①教務部と協議しつつ、教員間（外部講師を含む）での連携を図り、授業アンケートの実施方法や実施時間を工夫確保し、調査対象全科目で回答率が上がる方策に取り組む。
- ②履修カルテの記入時期や内容・表記の仕方等の見直しも含めて、学生・教員共に活用しやすいものにする。デジタルデータとしての保管を検討する。
- ③保育・幼児教育をめぐる状況の変化に応じて、変更の必要性があれば三つの方針の見直しを図る。
- ④オープンキャンパスや入試説明会、高校での進路ガイダンス等で、受験生への周知を図る。記載内容を点検し、必要があれば見直しを図る。

[テーマ 基準 I-C 社会貢献]

[区分 基準 I-C-1 高等教育機関として地域・社会に貢献している。]

点検・評価の観点

(1) 社会への貢献についての取組みに関する方向性を示している。

(2) 地域・社会への貢献に取り組んでいる。

①地域・社会に向けた公開講座、生涯学習事業、正課授業の開放（リカレント教育を含む）等を実施している。

②地方自治体、企業（等）、教育機関及び文化団体等と協定を締結するなど連携している。

③教職員及び学生はボランティア活動等を行っている。

(3) 地域・社会への貢献についての取組みを定期的に点検している。

(1) 現状

- ①下記の活動を実施して地域・社会に貢献している。
 - ・富山県教育委員会委託による「アカデミック・インターンシップ」を実施した。
 - ・幼児教育センターの活動として「第 52 回幼児教育研究会」を開催。年 2 回機関誌『越の子』を発行し、幼児教育をめぐる最新の課題について現場保育者と共有、富山県の保育・幼児教育の質の向上に貢献している。
 - ・多くの専任教員が、県内市町村主催の保育研修会等の講師として協力した。（詳細は「富山短期大学地域連携活動年報」に記載）
- ②教員、学生、卒業生、地域、行政と協働して、地域課題の解決やボランティア活動に取り組んでいる。

(2) 課題

- ①3～8月に開催する「オープンキャンパス」や、高校に出向いて行う「出張授業」と「アカデミック・インターンシップ」の開催内容の区別やねらいを再検討し、高校生に保育の魅力を伝える機会や方法の工夫改善を進める必要がある。
- ②幼児教育研究会は、富山国際大学子ども育成学部との連携を進め、分科会の担当等共催事業として運営していくのが望ましく、意思の疎通を図っていくことが求められる。
- ③ゼミでの調査研究成果や、地域課題解決の活動・サークル活動の成果を蓄積する仕組みを考える必要がある。

(3) 特記事項

- ①第52回幼児教育研究会では、現場のニーズを想定して、午前中の分科会を3つのワークショップ形式で実施した。ワークショップ1は、「トロトロ、ワクワク～リキッド粘土で」をテーマに造形表現の実技研修とした。ワークショップ2は、「保育者としての自己成長と人財育成—新任から若手・中堅へ—」をテーマに事例発表と意見交換を行った。ワークショップ3は、「絵本でワクワク保育」と題して、絵本専門士による実技研修とした。午後は「子どもまんなか保育ってどんなこと？～子どもも大人も幸せに生きるために～」を演題に、保育 SoW ラボ代表 井桁容子氏による講演・意見交換を行った。また、今回外部の保育士や学生ボランティアによる「託児所」を設け、子育て中の参加者に対応することにした。
- ②子育て支援サークル「すみりー」所属学生4名（幼教1年3名、食栄1年1名）による『「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 富山 学生レポート』が、こども家庭庁 HP の Note に掲載された。

(4) 改善計画

- ①「アカデミック・インターンシップ」の定員を15名として委託を受け、附属みどり野幼稚園の協力を得て、より充実した内容で開催を継続する。
- ②ゼミ等での調査研究成果をデータベースとして蓄積し、学生・教員が利用できるようにする。

[テーマ 基準 I-D 内部質保証]

[区分 基準 I-D-1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 自己点検・評価のための規程及び組織を整備している。
<input type="checkbox"/> (2) 定期的に自己点検・評価を行っている。
<input type="checkbox"/> (3) 定期的に自己点検・評価報告書等を公表している。
<input type="checkbox"/> (4) 自己点検・評価活動に全教職員が関与している。
<input type="checkbox"/> (5) 自己点検・評価活動に高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れている。
<input type="checkbox"/> (6) 自己点検・評価及び認証評価の結果を改革・改善に活用している。

(1) 現状

- ①学内の自己点検・評価委員会と連動して、内部質保証に取り組んでいる。
- ②Web シラバスシステムを導入し、授業後及び学期ごとに「授業アンケート」を実施して、日常的に自己点検・評価を行っている。
- ③毎年度末に学科の活動を学科会議で総括し「自己点検・評価報告書」を作成している。
- ④外部評価委員会の場で自己点検・評価活動を報告し、高等学校等の関係者の意見を聴取し取り入れている。(事務部で外部評価委員会資料として保管)
- ⑤報告書では現状・課題を踏まえて次年度への改善計画も記し、積極的に活用している。

⑥教育課程懇談会を開催し学生や非常勤講師からの意見を踏まえ改善に役立っている。

(2) 課題

①科目によっては毎回の授業アンケートを実施していないものもある。科目の特性に合わせて適切かつ可能な自己点検・評価の方法を工夫する必要がある。

②自己点検・評価報告書の形式変更により、学科内での点検項目を随時見直して記載内容の充実を図る必要がある。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

①学科会議等の時間を利用して、科目の特性に合わせた日常的な自己点検・評価の方法について、教員間で実践方法を情報交換し改善の機会を設ける。

②学科で必要と思われる点検項目を作成し、学生指導や進路指導、複数の教員で担当する科目等における項目の内容や方法のチェックを行い、情報交換を徹底する。

[区分 基準 I-D-2 教育の質を保証している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 学習成果を焦点とする査定（アセスメント）の手法を有している。
<input type="checkbox"/> (2) 査定の手法を定期的に点検している。
<input type="checkbox"/> (3) 教育の向上・充実のための PDCA サイクルを活用している。
<input type="checkbox"/> (4) 学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認し、法令を遵守している。

(1) 現状

①Web シラバスシステムを利用して成績の分析や授業アンケートの分析を行うことにより、学修成果を可視化し評価する手法を取り入れている。

②教務部を通じて関係法令の変更等をメールや回覧で確認しており、法令を遵守している。（教務部で管理）

③「音楽表現技術 I」では、初回の授業においてアンケート調査を実施し、ピアノ等の未経験者と既経験者の習熟度別にグループ分けを行い授業の展開をしている。「英語」ではプレイスメントテストを実施し、授業展開の工夫に役立っている。

(2) 課題

①複数教員による担当科目については、関連する科目との調整と連携が必要である。

②レポート課題等で安易に AI に頼る学生が増え、不適切な AI 利用が散見される。AI 利用のリスクや学習への弊害等の理解を促す必要がある。

(3) 特記事項

①前・後期末の授業アンケートでは、学修成果は良好で、学生の授業に対する満足度の高い科目が多くみられた。提示資料の工夫、グループワーク、学生主体の授業展開、将来専門職に就いたときに役立つ内容等に対する評価が高かった。

(4) 改善計画

①各教員は授業アンケートの結果を踏まえた具体的な改善策を立てており、学修成果の向上・定着の改善を図る。

②複数教員による担当科目では、担当者間の共通理解を図るとともに、関連する科目との調整を行い、学びが有機的に結合できるようにする。

[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]

[区分 基準Ⅱ-A-1 卒業認定・学位授与の方針に従って、単位授与、卒業認定や学位授与を適切に行っている。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 単位授与の要件を定めている。
<input type="checkbox"/> (2) 単位授与、卒業認定や学位授与に関する要件を周知している。 ①単位の実質化を図り、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、年間又は学期において履修できる単位数の上限設定等を行っている。
<input type="checkbox"/> (3) 単位授与、卒業認定や学位授与が適切に運用されていることを点検している。
<input type="checkbox"/> (4) 進級判定がある場合は周知している。

(1) 現状

- ①学科の卒業認定・学位授与の方針を定めている。
- ②学科の卒業認定・学位授与方針は学科の学修成果に対応しており、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件も明確に示している。 [「学生のしおり」に記載]
- ③学科の卒業認定・学位授与の方針は、短期大学評価基準と照らし合わせて点検しており、社会的・国際的に通用性があると考える。
- ④毎年5～6月に卒業生の就職先を訪問して、卒業生の様子を確認するとともに保育現場が求める人材を把握した上で学科会議でも情報を交換し、学科の卒業認定・学位授与の方針が地域・社会の要請に応じているか定期的に点検している。
- ⑤年度末に「学科教員と兼担、非常勤講師による教育課程等懇談会」を開催して、教育課程に関する意見を聴取している。教育実習及び保育実習終了後に、定期的の実習先の指導者との「実習懇談会」を設け、保育者に必要な資質能力についての意見を聴取し、学位授与方針に反映している。

(2) 課題

- ①実習先によって、学生に求める資質能力や評価の差が大きい。

(3) 特記事項

- ①今年度は、保育実習Ⅱに関する実習懇談会（対面）を6年ぶりに実施した。また、教育実習Ⅱでは実習先にアンケート調査を行った。それぞれに必要な資質能力等についての意見聴取から学位授与方針に反映している。

(4) 改善計画

- ①資質能力や評価のポイントが公平に行えるよう、実習評価票の観点・書式を見直す。

[区分 基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針に従って、教育課程を編成している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり体系的に編成している。 ①学習成果に対応した、授業科目を編成している。
②専門職学科においては、当該学科の専攻に係る職業の状況等を踏まえて授業科目の開発及び編成を行っている。
③シラバスに必要な項目（学習成果、授業内容、予習・復習の内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等）を明示している。
④学生による授業評価を定期的を受けて、授業改善に活用している。
⑤授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。

⑥通信による教育を行う学科又は専攻課程の場合には印刷教材等による授業（添削等による指導を含む）、放送授業（添削等による指導を含む）、面接授業又はメディアを利用して行う授業の実施を適切に行っている。
<input type="checkbox"/> (2) 教育課程の見直しを定期的に行っている。
<input type="checkbox"/> (3) 専門職学科の授業科目の開発、教育課程の編成及びそれらの見直しにおいて、教育課程連携協議会の体制・役割が明確である。

(1) 現状

- ①学科の教育課程編成・実施の方針を明確に示している。（「学生のしおり」に記載）
- ②学科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。
- ③学科の教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、「幼稚園教諭二種免許状」の取得に必要な教職課程及び「保育士養成課程」を体系的に編成している。学修成果に対応した授業科目を編成し、細則を作成して単位数の上限を定める工夫をし、成績評価は短期大学設置基準等にのっとり適切に判定している。シラバスには必要な項目をすべて網羅し、学修成果別評価基準（ルーブリック）の記載も整備している。（Web シラバスに記載）
- ④学科の教員は、経歴・業績を基に、短期大学設置基準の教員の資格にのっとり適切に配置している。
- ⑤教育課程の見直しについては、学科会議で定期的に行うとともに、年度末に「2年生と教員による教育課程等懇談会」を開催して、学生からも意見を聴取している。
- ⑥専任教員以外の授業担当者に対しては、隔年で「非常勤講師との教育課程懇談会」を設けて意見を聴取し、教育課程の改善に反映している。
- ⑦各実習の取り組み状況や課題を担当者で総括し、改善のための意見交換を行っている。
- ⑧指定保育士養成施設指定基準にのっとり、「指定保育士養成施設自己点検表」を作成し、必要な点検を適切に実施している。

(2) 課題

- ①現場からの要望として、保育実践力の向上が求められている。

(3) 特記事項

- ①これまで指導案や実習日誌は手書きで行ってきた。指導案作成については、作成後の計画変更や修正・訂正の作業効率を図るために、PCでのデジタル入力可能なフォームを作成し、指導案作成のデジタル化を進めた。

(4) 改善計画

- ①1年次の教育実習と保育実習指導Ⅰの担当者間、2年次の教育実習指導、保育実習指導Ⅱ・Ⅲ、保育内容指導法担当者間で内容を調整し、授業連携に取り組み、より効果的な指導方法の工夫を継続する。

[区分 基準Ⅱ-A-3 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう編成している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 教養教育の内容と実施体制が確立している。
<input type="checkbox"/> (2) 教養教育と専門教育との関連が明確である。
<input type="checkbox"/> (3) 教養教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

(1) 現状

- ①短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう教養科目を編成し、実施体制も確立している。

- ②「教育課程編成図」を作成して、教養科目と専門科目の関連性を明確にしている。
- ③幼児教育学科独自の初年次教養教育として「基礎演習」を開講している。幼児教育を学び研究する際に必要となる6つの基礎力を身に付けることを目指しており、専門教育との接続を図っている。
- ④教養科目についても「授業アンケート」を実施してその効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

(2) 課題

- ①2年次、後期の教養科目「自然と人間」「国際情勢」は選択科目である。1年次に教養科目「現代社会と人間」を全員が履修済みで、今年度もどちらの科目も履修生が非常に少なかった。教養科目に対する学習意欲の減退がみられる。

(3) 特記事項

- ①令和5年度より、文科省から要請されている「数理・データサイエンス。AI教育プログラム」に対応し、「データ・AI・情報リテラシー」教育が進められている。

(4) 改善計画

- ①1年次と2年次の教養科目の選択について、事前に丁寧に説明すると共に、教養科目の魅力と重要性を学生にしっかり伝える。令和7年度入学生より、2年次、後期の教養科目を「国際理解」1科目に変更する。

[区分 基準Ⅱ-A-4 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、職業又は實際生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 学科又は専攻課程の専門教育と教養教育を主体とする職業への接続を図る職業教育の実施体制が明確である。
<input type="checkbox"/> (2) 職業教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

(1) 現状

- ①短期大学設置基準にのっとり、「幼稚園教諭二種免許状」の取得に必要な教職課程及び「保育士養成課程」を実施し、職業教育に取り組んでいる。（「学生のしおり」に教育課程表掲載）
- ②「教育課程編成図」を作成して教養科目と専門科目の関連を明確にし、職業教育の実施体制を明確にしている。
- ③Web シラバスシステムを利用して成績の分析や授業アンケートの分析を行うことにより、職業教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。
- ④「保育実習指導」「教育実習指導」等の授業科目において、学外実習に対する意識を高め、スキルを向上させるための指導を行っている。
- ⑤教育実習及び保育実習終了後に、定期的の実習先の指導者の方との「実習懇談会」を設け、保育者に必要な資質能力についての意見を聴取し、授業の見直しを図っている。今年度は、保育実習Ⅱに関する実習懇談会（対面）を6年ぶりに実施した。教育実習Ⅱでは、実習先にアンケート調査を行い、実施方法の改善に活かした。
- ⑥夏季休業中に「自主実習」を希望者に実施し、現場でのスキル向上を図っている。

(2) 課題

- ①専門職就職率は100パーセントに近いが、進路希望の変更のため、一般職に就職する学生も若干名存在する。資格取得に至らず、就業困難な状況の学生がみられるようになった。
- ②専門職として就職することへの不安感が強く、仕事をする上での心構えが低下している学生が一部にみられる。中には、フルタイムでの勤務を望まない学生もみられる。

(3) 特記事項

①1年1名が進路の希望変更により経営情報学科へ転科した。

(4) 改善計画

①キャリア支援担当、担任、ゼミ指導教員及びキャリア支援センターとの連携を密にして、不安を抱える学生への指導を充実させる。

②就職希望を踏まえた保育実習Ⅱ・Ⅲの適正な選択、卒業生による就職講話、保育現場見学等を積極的に進め、専門職への就職意欲を高める。

[テーマ 基準Ⅱ-B 学習成果]

[区分 基準Ⅱ-B-1 短期大学及び学科又は専攻課程において、学習成果は明確である。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 学習成果に具体性がある。
<input type="checkbox"/> (2) 学習成果は一定期間内で獲得可能である。
<input type="checkbox"/> (3) 学習成果は測定可能である。

(1) 現状

①学科の学修成果は明確に示している。Web シラバスで各科目の学修成果別評価基準(ループリック)を記載し、学修成果の具体化及び測定可能化を図っている。(Web シラバスに記載)

(2) 課題

①「学修成果別評価基準(ループリック)」の記載で、科目によって粗密の差がみられる。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

①担当科目の特性を踏まえながら 5 つの学修成果の獲得のための方法等を工夫する。さらに「学修成果別評価基準(ループリック)」の記載を継続的に見直し、改善する。

[区分 基準Ⅱ-B-2 学習成果の獲得状況を適切に評価している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 各授業科目の学習成果は、学科又は専攻課程の学習成果に対応している。
<input type="checkbox"/> (2) 教員は、成績評価基準等により学習成果の獲得状況を適切に評価している。
<input type="checkbox"/> (3) 教員の成績評価の状況について把握し、点検している。

(1) 現状

①教務部で Web シラバスシステムを管理しており、学修成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。(詳細は教育研究部で記載のため省略)

②2年間の学修成果を集約したものとして「総合演習記録集」を作成し、関係機関に配布している。

③学生に対して、学期ごとに「履修カルテ」を記入させ、学生自身にも学修成果を確認させている。学生の PC 必携に伴い1・2学年とも「履修カルテ」のデジタル入力を進めている。学生自身が教員からのコメントをすぐに確認することができ、学修への意欲化を図っている。

(2) 課題

①期末の授業アンケートに答えない学生、毎回の授業アンケートを記入していない学生が散見される。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

- ①毎回の授業アンケートの必要性を科目担当者が説明し、記入状況を確認して書き込みを促す。

[区分 基準Ⅱ-B-3 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) GPA 分布、単位修得率、学位取得率、資格試験や国家試験の合格率、学生の業績の集積（ポートフォリオ）、ルーブリック分布などを活用している。
<input type="checkbox"/> (2) 学生調査や学生による自己評価などを活用している。
<input type="checkbox"/> (3) インターンシップや留学などへの参加率、大学編入学率、在籍率、卒業率、就職率などを活用している。
<input type="checkbox"/> (4) 卒業生への調査、卒業生の進路先を対象とする調査などを活用している。
<input type="checkbox"/> (5) 測定した結果を学習成果の点検に活用している。

(1) 現状

- ①キャリア支援センターで資格取得率や専門職就職率等を調査し、公表している。
②教育研究部で「授業アンケート」の結果を公表している。
③学科教員が毎年5～6月に卒業生の就職先を訪問して評価を聴取し、学修成果の点検に活用している。

(2) 課題

- ①授業アンケートの対象となる科目と質問項目が整理されたが、回答しない学生があり、回答率を上げるための意識付けや担当教員間の連携が必要である。
②卒業生の就職先訪問は、卒業生にとっては適切かと思われるが、訪問時期が早い為、就職後の評価としては不十分なこともある。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

- ①担当教員間で確認することで回答率が上がってきている。連携体制を継続し回答率を維持するよう努める。
②7月の保育実習Ⅱ・Ⅲや9月の教育実習Ⅱ、10月保育実習Ⅰ-1、2-3月の保育実習Ⅰ-2等で訪問する際に、卒業生が勤務している現場で、該当者の評価を聴取して学科会議で情報交換を図る。新卒以外の卒業生についても評価や状況などを聴取する。

[区分 基準Ⅱ-B-4 学習成果の獲得状況の公表に努めている。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 学習成果の獲得状況について、可視化した根拠がある。
<input type="checkbox"/> (2) 学生に獲得した学習成果を自覚できるように、根拠を基に説明している。
<input type="checkbox"/> (3) 学習成果の獲得状況について、根拠を基に公表することに努めている。

(1) 現状

- ①教員は学修成果の獲得に向けて責任を果たしている。Web シラバスシステムを利用して成績や授業アンケートを分析し、授業改善レポート等を作成して授業改善を心掛

けている。(Web シラバスに記載)

- ②「履修カルテ」の記入を通じて、学生の学修状況を把握して支援を行っている。
- ③教室内のプロジェクターやプレイヤー設備を有効活用して、授業の改善に取り組んでいる。
- ④年度末に「2年生と教員による教育課程等懇談会」を開催して、学生から施設設備に対する意見・要望も聴取している。

(2) 課題

- ①付属図書館の図書借り入れが少ない。
- ②学内のプリンター設置状況や利便性が学生数に対して十分でない。
- ③OA 機器の老朽化等により、学生から学習環境や機材改善の要望が多く出されている。

(3) 特記事項

- ①外部講師による「絵本読み聞かせ」講義を、これまでの図書館の企画から教養科目「基礎演習」の授業の一環として移行して実施し、学科の1年生が全員聴講した。図書館の利用促進も行った。

(4) 改善計画

- ①授業等の工夫を通じて付属図書館の利用と借り入れを促進する。
- ②今後も、学生のパソコン必携に伴う環境の整備 (Wi-Fi、プリンター設置等) について、事務当局とも連携して対策を考える。

[テーマ 基準Ⅱ-D 学生支援]

[区分 基準Ⅱ-D-1 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 入学手続者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供している。
<input type="checkbox"/> (2) 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーション等を行っている。
<input type="checkbox"/> (3) 学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択のためのガイダンス等を行っている。
<input type="checkbox"/> (4) 学生便覧等、学習支援のための印刷物 (ウェブサイトを含む) を発行している。
<input type="checkbox"/> (5) 学生に対して履修及び卒業に至る指導・支援を行っている。
<input type="checkbox"/> (6) 学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制を整備している。
<input type="checkbox"/> (7) 基礎学力が不足する学生や進度の遅い学生に対し補習授業等を行っている。
<input type="checkbox"/> (8) 進度の速い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っている。
<input type="checkbox"/> (9) 通信による教育を行う学科又は専攻課程の場合には、添削等による指導の学習支援の体制を整備している。
<input type="checkbox"/> (10) 図書館等に専門的職員その他の専属の教員又は事務職員等を配置し、学生の学習向上のために支援を行っている。
<input type="checkbox"/> (11) 学生の海外への派遣 (長期・短期) を行っている。
<input type="checkbox"/> (12) 学習成果の獲得状況を示す量的・質的データに基づき学習支援方策を点検している。

(1) 現状

- ①推薦入試合格者に対して入学前オリエンテーションを実施し、ピアノ演奏や絵本のみ聞かせに関する課題に取り組ませたり、入学までの心構えを指導したりしている。
- ②入学者に対しては、学修、学生生活のためのオリエンテーションを実施している。
- ③実習前に少人数で集まる場を設定し、2年生から1年生へ実習の心構えを伝え、教材

紹介を行うなどしている。

④教養科目の「基礎演習」を通じて、学修の動機づけに焦点を合わせた学びの方法をガイドしている。

⑤学修成果の獲得に向けて「学生のしおり」などを作成し配布している。また、Web シラバスシステムを利用して、学生が自分の学修成果をレーダーチャート等で可視化して把握できるよう学修支援の整備を図っている。

⑥学修成果の獲得に向けて、各教員で小テストや課題提出等の工夫をしている。それでもまだ基礎学力が不足する学生に対しては、各授業担当者が適宜指導を行っている。

⑦学修上の悩みなどを持つ学生に対しては、担任やゼミ担当者が健康支援センターと連携して支援する体制をとっている。

⑧Web シラバスシステムを利用することで、学修成果の獲得状況の量的・質的データに基づき学修支援方策を点検している。(Web シラバスに記載)

(2) 課題

①学業不振の学生が複数名存在し、実習要件を満たせない者もいる。

②欠席が多い、課題や提出物を整理して計画的に取り組めないなど、学修上の悩みを持つ学生や生活習慣上指導が必要な学生が増えている。

③学生本人の不安感情や発達的な特性、基本的な生活習慣が身に付いていないなどの理由で、実習を最後まで継続できなかった学生が複数みられた。

(3) 特記事項

①教養科目の「基礎演習」でのゼミ単位での指導を活かし、1年生に対し後期当初にゼミ指導教員による面談を行い、クラスアドバイザー以外の教員から学修支援を行った。

(4) 改善計画

①クラス担任だけでなく、授業担当者や「基礎演習」及び「総合演習」ゼミ担当者間で学修に困難を感じる学生の早期発見に努め、適切な個別対応を行う。

②学科教員および健康支援センター間で連携し、情報交換しながら個別に対応する。

③学生へのセーフティネットの充実のため、ゼミ担当者による指導や支援をこれまで以上に取り入れていく。

[区分 基準Ⅱ-D-2 学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 学生の生活支援のための教職員の組織（学生指導、厚生補導等）を整備している。
<input type="checkbox"/> (2) クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制を整えている。
<input type="checkbox"/> (3) 学生食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティに配慮している。
<input type="checkbox"/> (4) 宿舎が必要な学生に支援（学生寮、宿舎のあっせん等）を行っている。
<input type="checkbox"/> (5) 通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）を図っている。
<input type="checkbox"/> (6) 奨学金等、学生への経済的支援のための制度を設けている。
<input type="checkbox"/> (7) 学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制を整えている。
<input type="checkbox"/> (8) 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めている。
<input type="checkbox"/> (9) 留学生が在籍する場合、留学生の学習（日本語教育等）及び生活を支援する体制を整えている。
<input type="checkbox"/> (10) 社会人学生が在籍する場合、社会人学生の学習を支援する体制を整えている。
<input type="checkbox"/> (11) 障がい者の受入れのための施設を整備するなど、障がい者への支援体制を整えて

いる。
<input type="checkbox"/> (12) 長期履修生を受け入れる体制を整えている。
<input type="checkbox"/> (13) 学生の社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動等）に対して積極的に評価している。

(1) 現状

- ①クラスアドバイザーやゼミ担当者間で情報交換すると共に、学務課・学生支援担当者と連携して学生の生活支援を積極的に行っている。（詳細は学務課で記載のため省略）

(2) 課題

- ①カウンセリングや個別対応、経済的支援を必要とする学生が増えている。
 ②困難な中でもボランティア等課外活動に参加しようとする学生がいる一方で、自らは動けない学生もいる。

(3) 特記事項

- ①教養科目の「基礎演習」でのゼミ単位での指導を活かし、1年生に対し後期当初にゼミ指導教員による面談を行い、クラスアドバイザー以外の教員から学修支援を行った。

(4) 改善計画

- ①学科教員間での情報交換や学務課・学生支援担当者、健康支援センターとの連携を密にして、支援を必要とする学生に対して適切かつ迅速に対応する。
 ②学生のボランティア活動の参加を、子育て支援サークルを含めて、さらに増やすことを目標とし、学生に対して積極的に働きかける。

[区分 基準Ⅱ-D-3 進路支援を組織的に行っている。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 就職支援のための教職員の組織を整備し、活動している。
<input type="checkbox"/> (2) 就職支援のための施設を整備し、学生の就職支援を行っている。
<input type="checkbox"/> (3) 就職のための資格取得、就職試験対策等の支援を行っている。
<input type="checkbox"/> (4) 学科又は専攻課程ごとに卒業時の就職状況を分析・検討し、その結果を学生の就職支援に活用している。
<input type="checkbox"/> (5) 進学、留学に対する支援を行っている。

(1) 現状

- ①キャリア支援センターとの連携により、積極的に進路支援を行っている。
 ②学科内では、キャリア支援担当を決めて「進路指導計画」を作成し、きめ細かい就職試験対策を行っている。
 ③専門科目試験、面接・作文試験指導、就職模擬試験等は、学科教員が担当して行っている。
 ④保育職や社会福祉施設に従事する卒業生や、就職活動を終えた2年生からのアドバイスとして「先輩と語る会」や「就職活動発表会」を行っている。
 ⑤進学希望者に対する支援として、小論文・面接対策等を丁寧に行っている。

(2) 課題

- ①学生の学力が低下傾向にあり、一層きめ細かい指導が必要になってきている。

(3) 特記事項

- ①ゼミ指導の教員も個別に面接や作文指導を担うようになり、よりきめ細かい指導ができるようになった。
 ②公務員採用試験（保育職）に15名が合格した。

③富山国際大学子ども育成学部への編入 1 名、富山短期大学経営情報学科への転科 1 名（1 年）であった。

(4) 改善計画

①就職支援担当・クラスアドバイザー・ゼミ指導教員の連携を密にして、個別指導の必要な学生への指導を充実させる。

[テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源]

[区分 基準Ⅲ-A-2 教員は、教育課程編成・実施の方針に基づき教育研究活動を行っている。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 専任教員又は基幹教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席等）は教育課程編成・実施の方針に基づき成果をあげている。
<input type="checkbox"/> (2) 専任教員又は基幹教員は、科学研究費補助金等の外部資金を獲得している。
<input type="checkbox"/> (3) 専任教員又は基幹教員の研究活動に関する規程等を整備し、研究環境の整備に努めている。
<input type="checkbox"/> (4) 専任教員又は基幹教員の研究倫理を遵守するための取組みを定期的に行っている。
<input type="checkbox"/> (5) 専任教員又は基幹教員の研究成果を発表する機会（研究紀要の発行等）を確保している。
<input type="checkbox"/> (6) 専任教員又は基幹教員の研究、研修等を行う時間を確保している。
<input type="checkbox"/> (7) 専任教員又は基幹教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程を整備している。

(1) 現状

①専任教員は、学科の教育課程編成・実施の方針に基づいて、教育研究活動を行っている。

(2) 課題

①学生への指導に要する時間が多くなり、研究活動にかかる時間が確保しにくいことがある。

②オープンキャンパスや入試等を土日に開催するために、学会参加が難しくなっている。

(3) 特記事項

無

(4) 改善計画

①教員間の連携で支援を必要とする学生への指導の負担軽減や行事担当者の役割分担を明確化し、調整を図る。

②オンラインでの学会開催を含め、積極的に参加できるよう教員間で連携・協力する。

令和7年度 富山短期大学卒業生【令和7年3月卒】の事業所・企業等就職先訪問 報告書

— 集計 —

幼児教育学科		調査卒業生数 84名			
評価項目	A (良い)	B (やや良い)	C (普通)	D (やや悪い)	E (悪い)
1. 礼儀・基本的マナー	65.1%	25.3%	7.2%	2.4%	0.0%
2. チームワーク [チームで働く力]	60.2%	26.5%	12.1%	1.2%	0.0%
3. アクション [前に踏み出す力]	31.3%	35.0%	31.3%	1.2%	1.2%
4. シンキング [考え抜く力]	22.9%	36.1%	37.4%	3.6%	0.0%

5. その他、上司、指導者のコメント

- ・学ぶ意欲がある。将来に向けて意志を強く持ちはじめている。
- ・とても良い絵顔で関わっている。1人暮らしがキチンと生活できてテキパキと行動できている。
- ・笑顔に好感が持て、保護者にもしっかりと対応できている。
- ・一生懸命にメモをとり仕事を覚えようとして好感が持てる。
- ・卒園児であり、帰ってきてくれたのがとても嬉しい。
- ・今はまだ職場に慣れることが先決で、課題解決能力などはこれから期待したいところ。
- ・手が欲しいときに進んでサポートに入るなど、周囲の状況をよく見て行動している。

6. 大学に要望すること(大学で指導してほしいこと、学生に身に付けてほしいこと 等)

- ・アルバイトやボランティア等で、とにかく現場の経験を積んでほしい。
- ・わからないことは自分から尋ねる。間違えたら素直に謝ること。仲間と共に解決策を考えられること。
- ・挨拶・言葉遣い・電話対応など接遇を学ぶ機会があれば良い。
- ・声のかけ方について、指導をお願いしたい。特に注意する場面での言葉遣いなどをお願いできればと思っている。
- ・コミュニケーション能力を引き上げて欲しい。チームで働くことを理解して欲しい。
- ・フォーマルな文章を書く力を身に付けて欲しい。
- ・実習の指導案はPCにしてほしい。手書きだと訂正しづらい。
- ・卒業生のサポートに関して、養成校と現場で連携して協力していきたい。
- ・掃除など家の手伝いを率先して行ってほしい。
- ・遊びの発想力を大事にしてほしい。

7. 来年の求人について

各園による

8. 卒業生からの声 ※ あるいは該当年度以前の卒業生からのコメントがある場合も、こちらにご記入ください。

- ・新たなことにもチャレンジしたいと考えているが、今はまだ慣れることに精一杯。何より子どもが可愛い。
- ・毎日失敗ばかりしているが、周囲の方の温かい支えでなんとか頑張っている。子ども達の成長を感じられている。
- ・毎日が新しい事の発見で、子どもと一緒に自分も成長していると実感しています。
- ・学生時代にもっと勉強しておけば良かったと反省することがある。
- ・新人の自分がいることで、同じ部屋の保育士たちに迷惑をかけているのではと不安に思うこともある。
- ・富山短期大学卒業の先輩がたくさんいて、話もできる。
- ・短大時代を振り返ると、模擬保育をもっとしっかり準備をして取り組むべきだった。
- ・制作物のレポーターを増やしておけばよかった。
- ・仕事は大変ですが、教えてもらっているので、頑張れています。